

病院職員アンケート調査結果

◆ アンケート調査の概要

〔実施期間〕 【WEB】2024年11月1日(金)～11月15日(金)

〔対象者〕 市立病院所属の全職員（常勤職員・会計年度任用職員）

〔回答形式〕 GoogleForms を活用した WEB アンケート

〔回答件数〕 110 件

〔設 問〕

設問 1 あなたの所属を選択してください。

設問 2 病院全体における現状のソフト面(組織・人員体制や仕組み・ルール等)について以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

設問 3 病院全体における現状のハード面(施設や設備、医療機器等)について以下の項目ごとに当てはまるものを選択してください。

設問 4 新たな市立病院の建替えに際し、当院の担うべき役割・診療機能として必要なものを3つ以内選択してください。

設問 5 市立病院の建替えに関して、患者サービスにおけるソフト面への期待について当てはまるものを3つ以内選択してください。

設問 6 市立病院の建替えに関して、職員が快適に働くためのソフト面への期待について当てはまるものを3つ以内選択してください。

設問 7 市立病院の建替えに関して、患者サービスにおけるハード面への期待について当てはまるものを3つ以内選択してください。

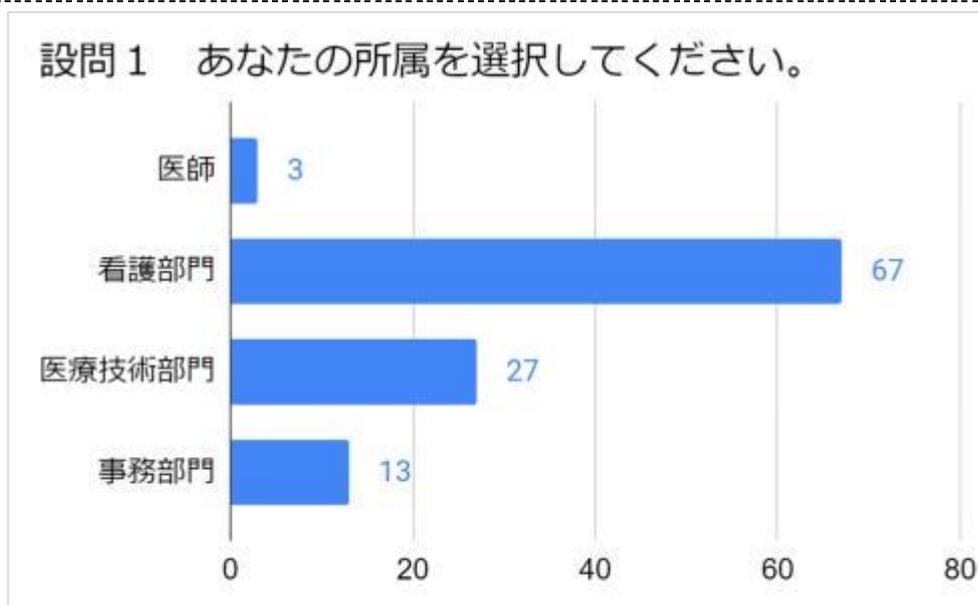
設問 8 市立病院の建替えに関して、職員が快適に働くためのハード面への期待について当てはまるものを3つ以内選択してください。

設問 9 新病院における既存診療科の在り方について当てはまるものいずれかを選択してください。

設問 10 設問 10 以外に必要と思われる診療科があればご記載ください。

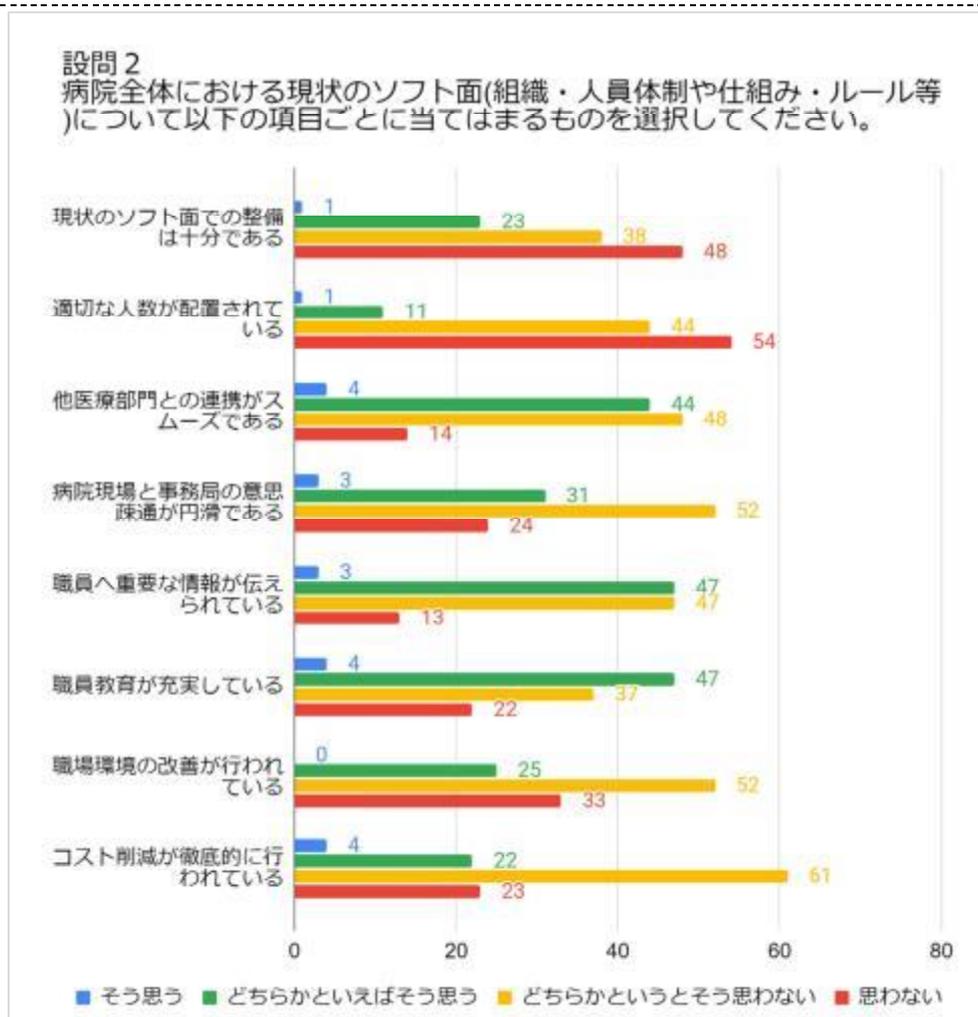
設問 11 最後に、新病院に向けて期待することをお聞かせください。

◆ 所属する部門について



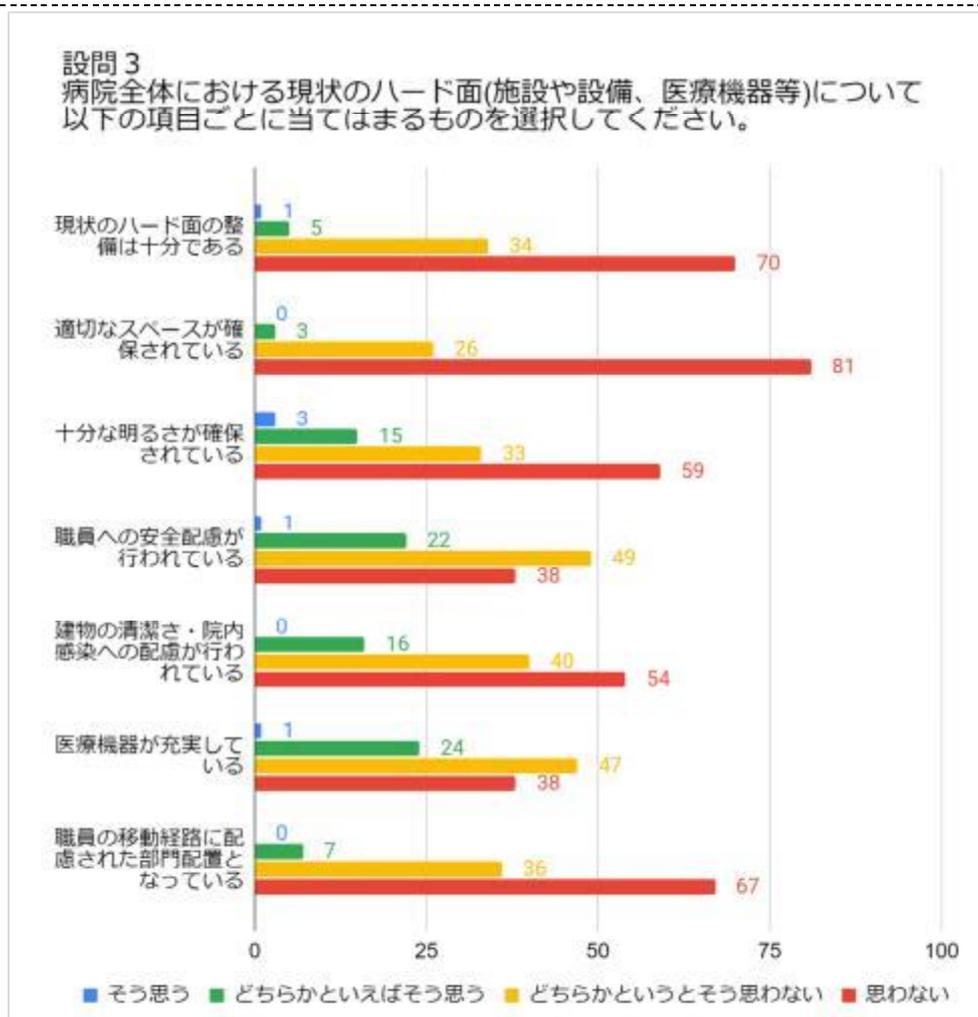
回答件数 110 件のうち、所属部門をみると、看護部門が 67 名（約 65%）と最も多く、全体の過半数を占めています。次いで、医療技術部門が 27 名（約 26%）、事務部門が 13 名（約 12%）となっています。医師は 3 名（約 3%）と最も少ない割合となっています。

◆ 現状のソフト面（組織・人員体制や仕組み・ルール等）について



現状のソフト面全般的な項目である「現状のソフト面での整備は十分である」に対して、「思わない」、「どちらかというところ思わない」という意見が過半数を占めており、ソフト面の改善が求められています。特に、「適切な人数が配置されている」という項目に対しては、「そう思わない」という意見が多く、現行の運営体制や人員体制に課題があることが浮き彫りになりました。人員体制は、病院運営の基盤を成す要素であり、優先的に改善が必要であると考えられます。また、「職場環境の改善が行われている」や「コスト削減が徹底的に行われている」という項目に対しても、「そう思わない」という意見が多く、職場環境については職員のモチベーション、コスト削減については病院の経営効率に直結するため、現状の取り組みを改めて見直す必要があります。その他にも他医療部門との連携や病院現場と事務局の意思疎通についても改善策を検討し、より良い病院運営が実現する必要があります。

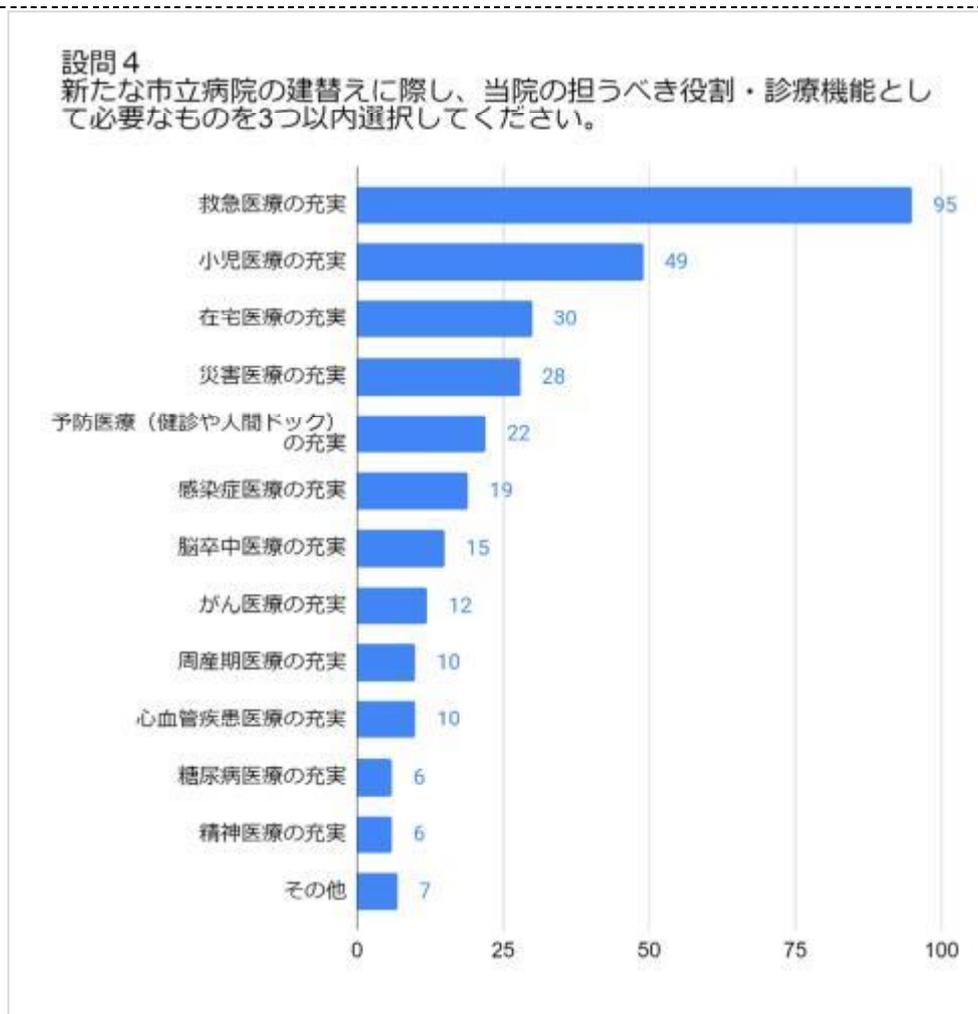
◆ 現状のハード面（施設や設備、医療機器等）について



現状のハード面全般的な項目である「現状のハード面の整備は十分である」に対して、「思わない」、「どちらかというと思わない」という意見が過半数を占めており、ハード面の改善が求められています。

特に、「適切なスペースが確保されている」、「職員の移動経路に配慮された部門配置となっている」という項目に対しては、「そう思わない」という意見が多く、現状のスペース不足、職員動線に課題があることが考えられます。その他にも、院内の明るさ、建物の清潔さ・感染などについても課題が見受けられるため、改善策として自然光を取り入れやすい設計や適切な照明設備の導入や、清掃や衛生管理が行いやすい構造設計、感染症対策に配慮したゾーニングなどを検討していく必要があると考えられます。

◆ 新たな市立病院の担うべき役割・診療機能について

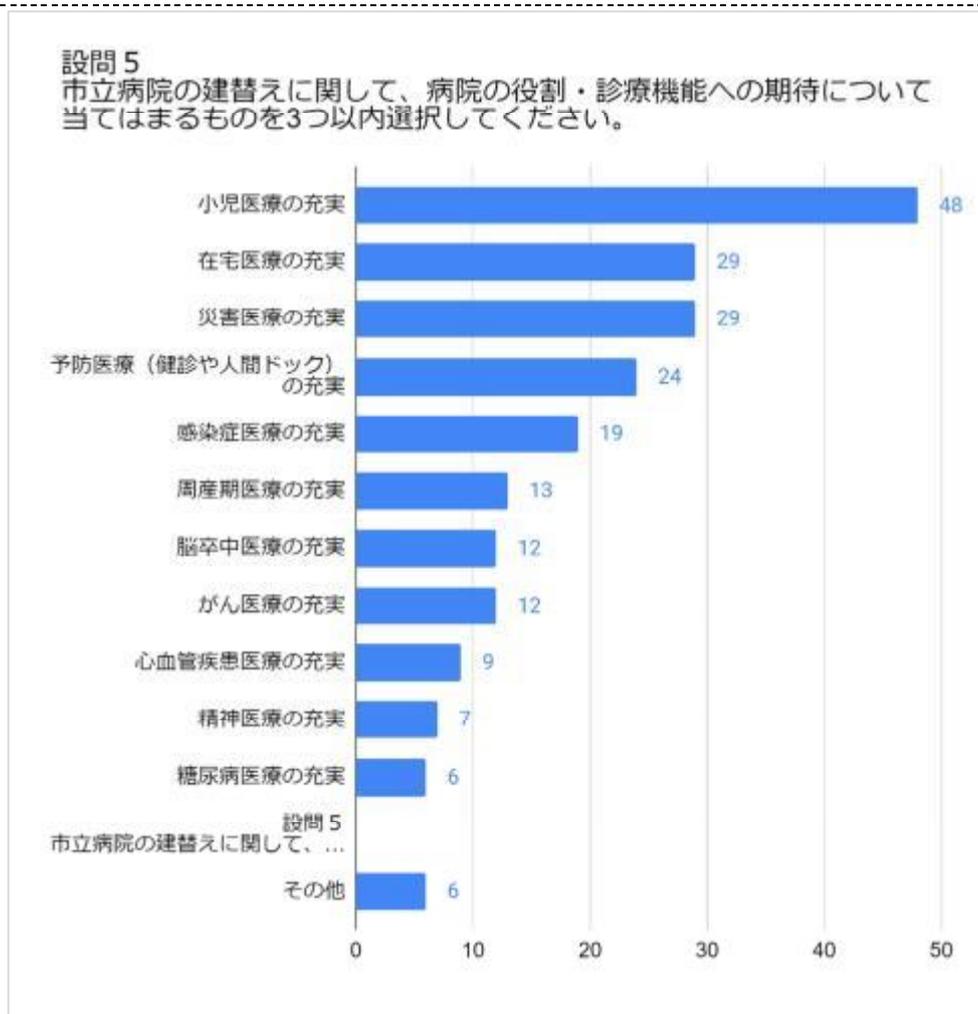


新たな市立病院の担うべき役割・診療機能として、最も多かったのは、「救急医療の充実」（95件）でした。次いで、「小児医療の充実」（49件）、「在宅医療の充実」（30件）、「災害医療の充実」（28件）が上位に挙げられています。

その他の意見としては、「リハビリテーションの充実」、「総合診療」、「整形外科、外科、泌尿器科の手術の維持」、「人工透析」といった具体的な機能も挙げられています。

新たな市立病院における担うべき役割・診療機能については、これらの意見を参考とし、人員体制などによる実現可能性を踏まえた検討が必要となります。

◆ 新たな市立病院に期待する役割・診療機能について

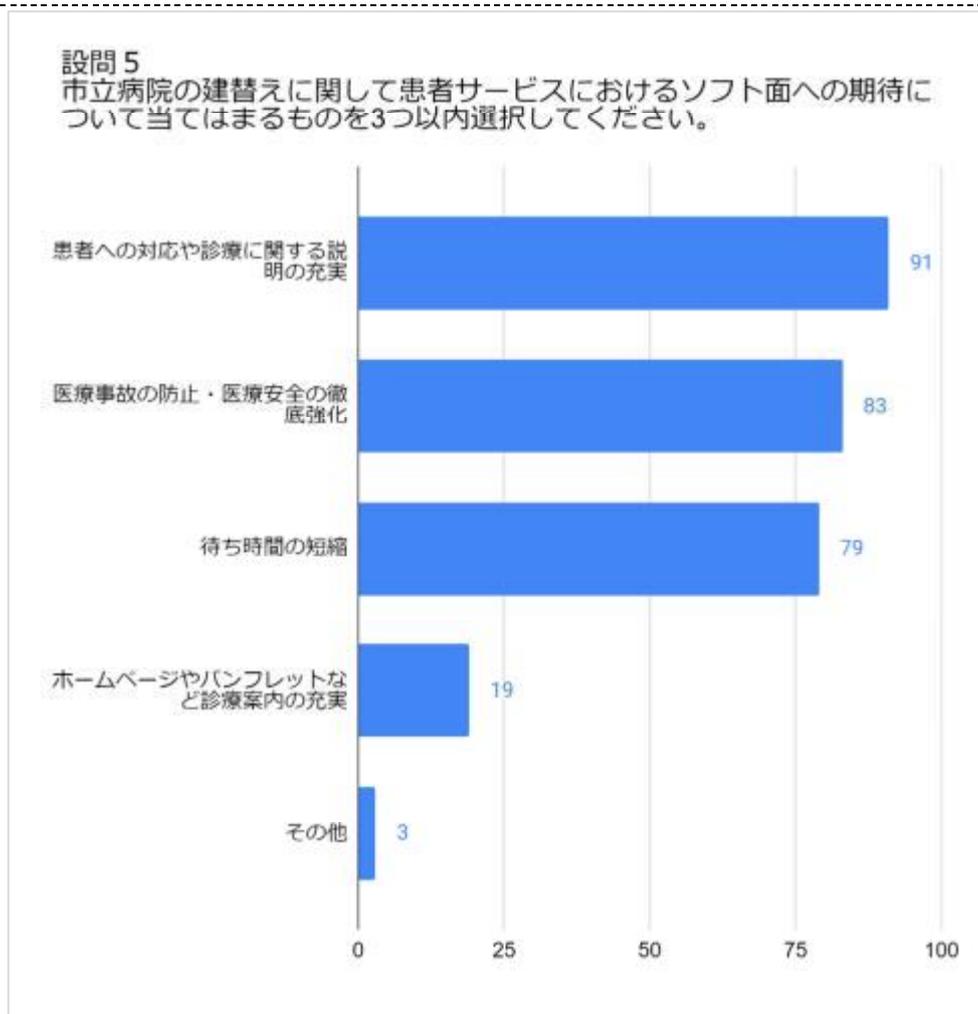


(設問 4 とほぼ同じ内容の設問になってしまいましたので、参考として掲載します)

【その他の意見】

- ・ 外科系手術の維持
- ・ 駐車場
- ・ リハビリテーションの充実
- ・ 地域医療 訪問 退院調整部門の充実
- ・ 血液透析

◆ 新たな市立病院の患者サービスにおけるソフト面への期待について

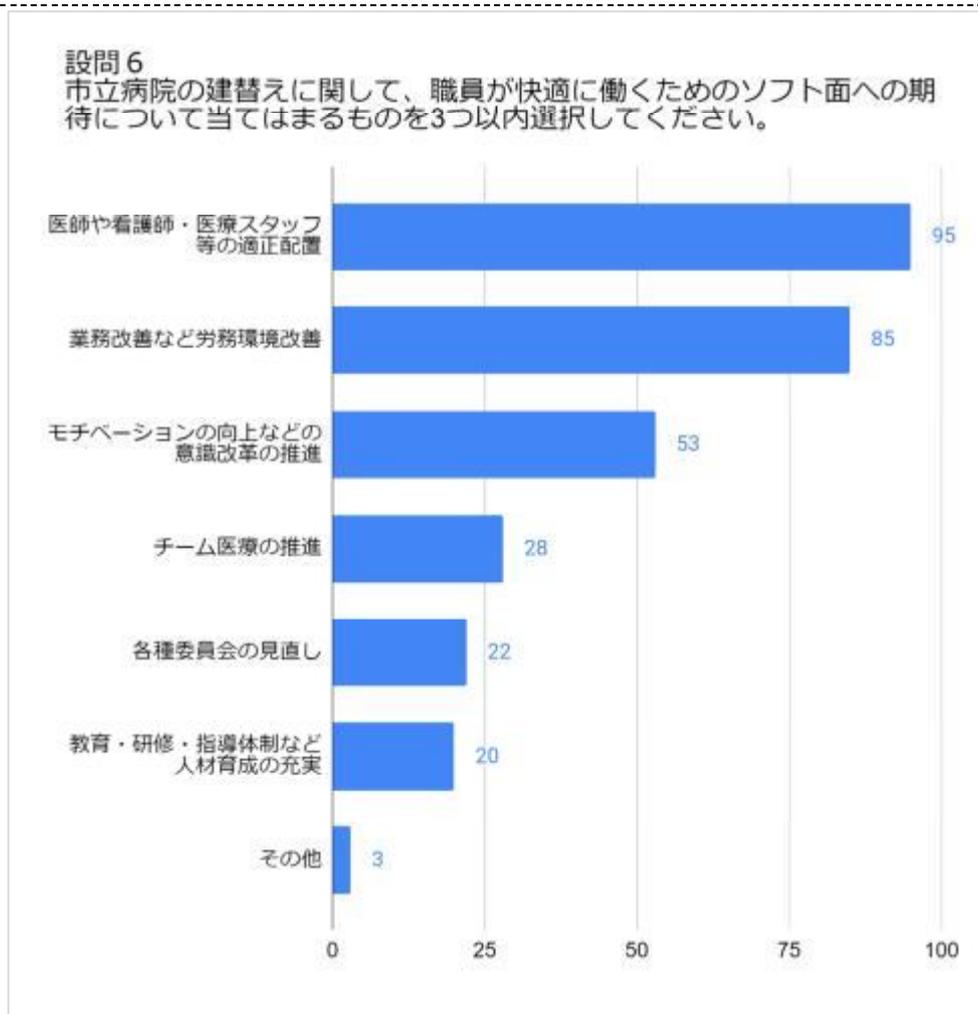


患者サービスにおけるソフト面の期待について、最も多かったのは、「患者への対応や診療に関する説明の充実」（91票）でした。次いで、「医療事故の防止・医療安全の徹底強化」（83票）、「待ち時間の短縮」（79票）が上位として挙がっています。

その他の意見としては、「会計時間の短縮」、「地域医療および退院調整部門の案内の充実」、「診療時間の拡大」といった具体的な改善案も挙げられています。

アンケート結果を参考に、患者への説明責任の徹底や医療安全対策の強化、効率的な運営体制の構築などの検討に向けた検討が必要と考えられます。

◆ 新たな市立病院で職員が快適に働くためのソフト面への期待について

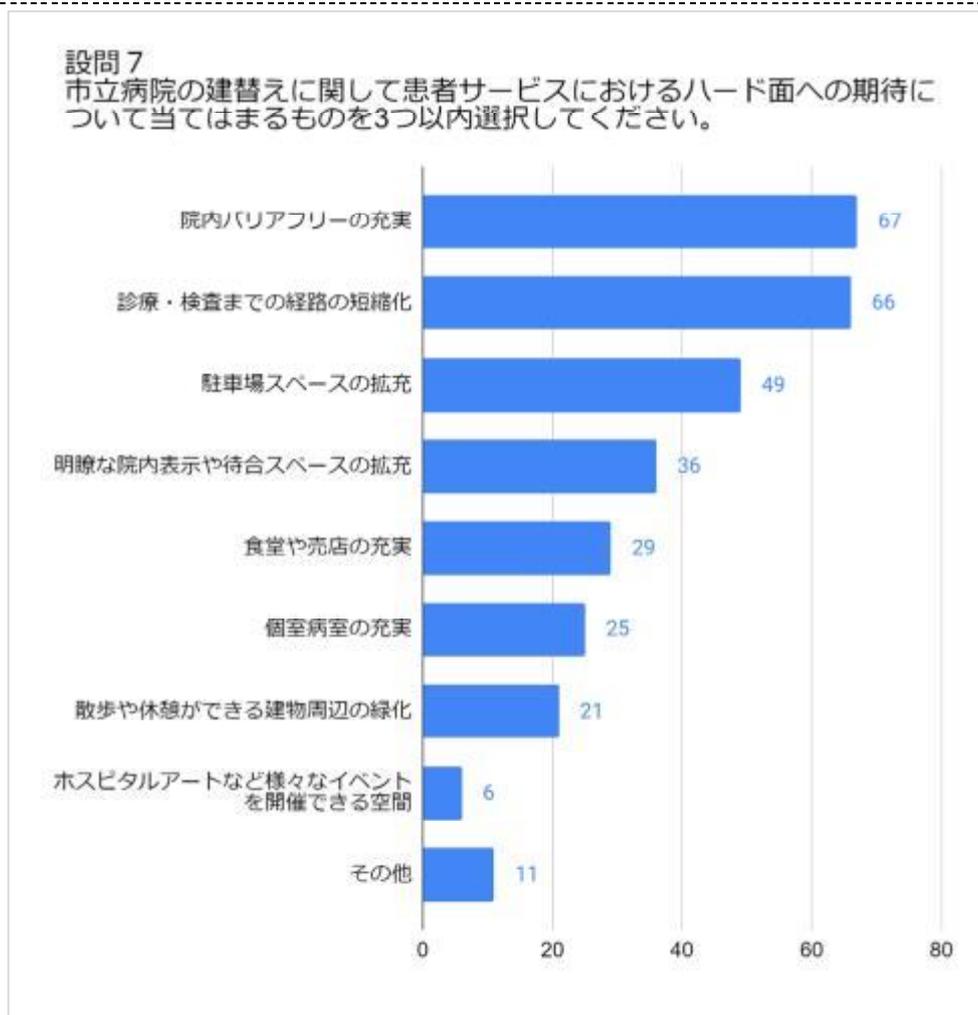


職員が快適に働くためのソフト面への期待について、多くの回答が寄せられたのは、「医師や看護師・医療スタッフ等の適正配置」（95票）、「業務改善など労務環境改善」（85票）となっています。また、「モチベーションの向上などの職員改革の推進」（53票）も一定の回答をいただいています。

その他の意見として、「年休消化」、「階級、職名、夜勤手当、給与の見直し」、「基本給や夜勤手当の引き上げ」といった具体的な提案も挙げられています。

全体として、職員の配置と労務環境の改善が最も強く求められており、同時に、モチベーション向上を含む職場改革にも一定の注目が集まっています。

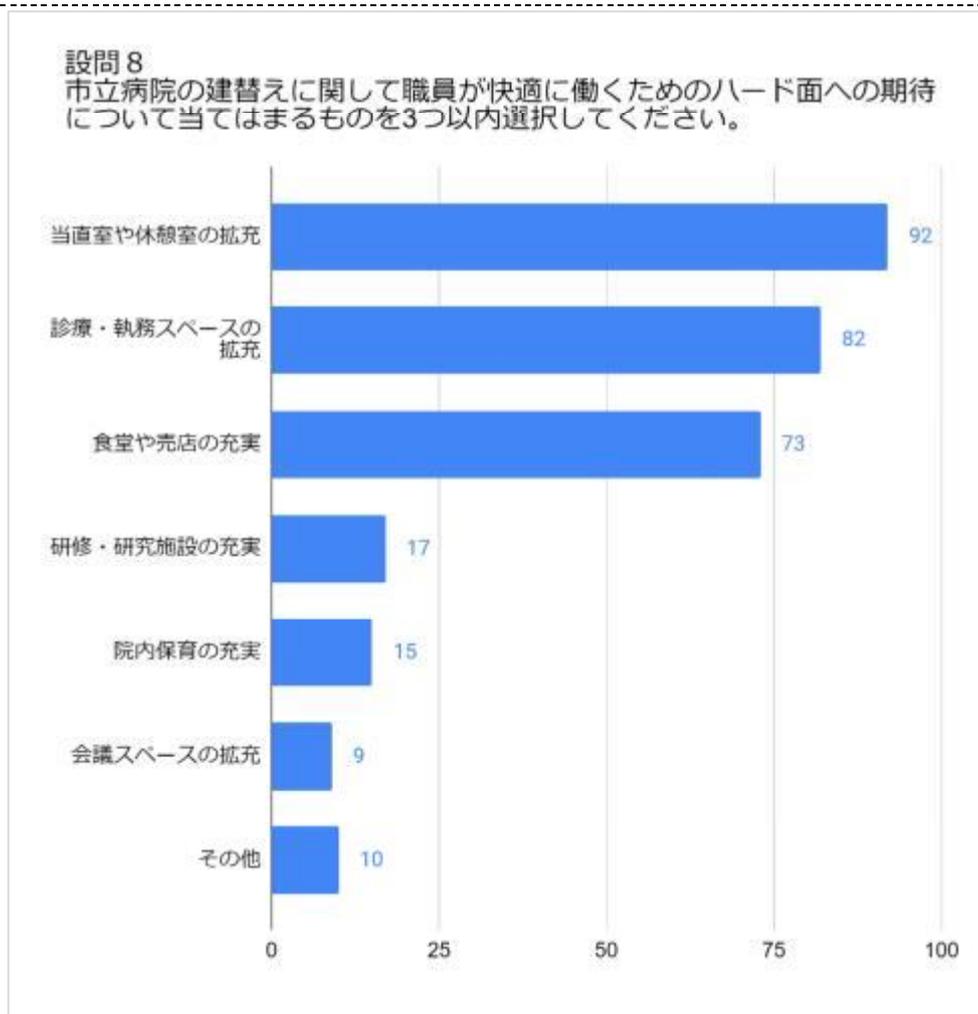
◆ 新たな市立病院の患者サービスにおけるハード面への期待について



患者サービスにおけるハード面の期待について、多くの要望が寄せられたのは「院内バリアフリーの充実」（67票）と「診察・検査までの経路の短縮化」（66票）、「駐車場スペースの拡充」（49票）となっています。他にも、「明瞭な院内表示や待合スペースの拡充」（36票）、「食堂や売店の充実」（29票）、「個室病室の充実」（25票）も一定数の要望が寄せられています。

全体として、利便性の改善が最も重要視されており、特にバリアフリー化や診察経路の効率化が必要であることが伺えます。同時に、快適性や環境整備も一定のニーズが確認されました。

◆ 新たな市立病院で職員が快適に働くためのハード面への期待について

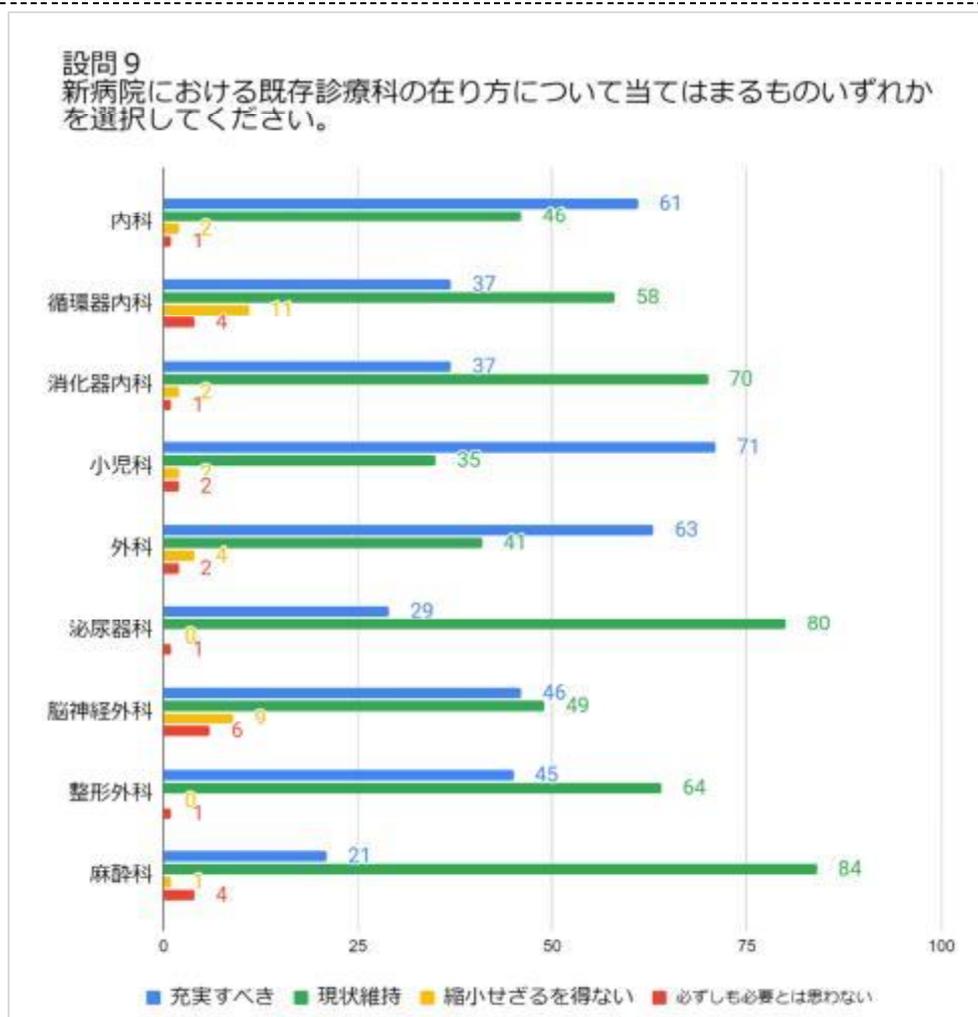


職員が快適に働くためのハード面への期待について、最も多く要望が寄せられたのは「当直室や休憩室の拡充」（92 票）となっています。次いで、「診療・執務スペースの拡充」（82 件）、「食堂や売店の充実」（73 件）となっており、職員の業務効率化と生活面での利便性の向上が重要視されていることが示されています。一方、「院内保育の充実」（15 票）、「研修・研究施設の充実」（17 票）、「会議スペースの拡充」（9 票）は、比較的少ない件数にはなっていますが、これらは特定の職種や役割に限定されたニーズであるため、引き続き拡充の検討を行います。

その他の意見としては、「職員と患者の出入口や通路の分離」「駐車場の整備」「トイレや病室環境の改善」、「Wi-Fi 環境の整備」、「使用する医療機器の充実」など、具体的な意見が挙げられました。

職員が快適に働くためには、直接的な労働環境の改善（例：診療スペース、当直・執務スペースの拡充）だけでなく、生活面での利便性（例：食堂の充実）も求められています。

◆ 新たな市立病院における既存診療科の在り方について

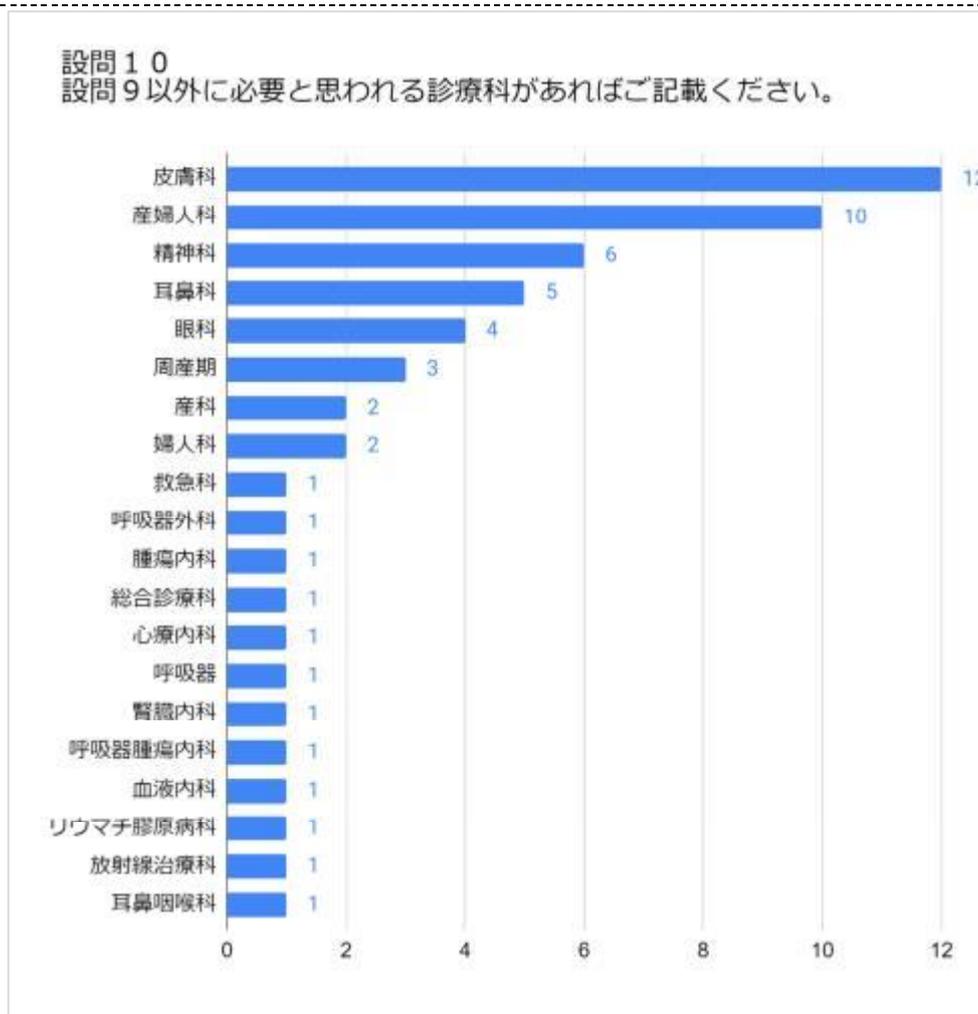


既存診療科の在り方について、「充実すべき」との意見が最も多かったのは、「小児科」（71件）でした。次いで、「外科」（63件）、「内科」（61件）となっています。

「現状維持」との意見が多かった既存診療科は、「麻酔科」（84件）、「泌尿器科」（80件）、「消化器内科」（70件）、「整形外科」（64件）、「循環器内科」（58件）、「脳神経外科」（49件）となっています。

結果として、小児科、外科、内科への充実への要望が高いことは、これらの診療科の需要があるものの、何らかの課題があるものと伺えます。この調査結果を参考に、各既存診療科の課題を明確化し、充実に向けた検討が必要と考えられます。

◆ その他に必要と思われる診療科について



その他に必要なと思われる診療科として、最も多くの回答が集まったのは「皮膚科」（12 件）でした。また、「産婦人科」（10 件）、「周産期」（3 件）、「産科」（2 件）、「婦人科」（2 件）といった産婦人科およびその関連分野も多くの回答をいただきました。その他にも、「精神科」（6 件）や「耳鼻科」（5 件）、「眼科」（4 件）も一定の回答をいただいています。

全体として、様々な診療科に対する回答が得られたものの、特に「皮膚科」と「産婦人科およびその関連分野」への要望が突出しており、これらの分野に対する医療提供体制の構築が重要であることが伺えます。

◆ 新病院に向けて期待すること（自由記載）

<主な意見を抜粋（要約）>

① 地域に根ざした病院の実現

- ・ 地元住民が安心して通える病院であり、地域の支えとなる存在を目指してほしい。
- ・ 人口減少や民間医療機関の撤退が懸念される中、地域全体で医療体制を支える「オール秩父」の連携を検討すべき。

② 働きやすい環境の整備

- ・ 夜勤看護師の休憩スペースや男女別の仮眠室の整備。
- ・ 動線の合理化や収納スペースの確保など、職員が快適に働ける環境を整備。
- ・ 職員の意見を直接聞き、給与や労働条件の見直しを行う。

③ 患者に配慮した設計

- ・ トイレや洗面台の充実、バリアフリー設計。
- ・ 清潔感のある施設の維持と感染対策の徹底。
- ・ 高齢者や障害者が利用しやすい設備の導入。

④ 持続可能で長期的視点を持つ施設計画

- ・ 将来の医療需要や人口動態を考慮した施設の整備。
- ・ 建設後の運営を見据えた計画。

⑤ 医療と福祉をつなぐ拠点としての役割

- ・ 保健福祉機関との連携強化。
- ・ 高齢者、子育て家庭、障害者が集えるコミュニティスペースの提供。

⑥ 医療提供体制の充実

- ・ 医師やスタッフの人数確保と適切な配置。
- ・ 医療機器の充実と効率的な運用。

<総括>

新病院に向けて期待することとして、特に多かった意見は、「地元住民が安心して利用できる病院を目指してほしい」という意見でした。また、職員の働き易さとして、「動線の工夫」や「休憩スペースの確保」、「労働環境の改善」が求められていました。さらに、患者への配慮として、「トイレや洗面台の充実」、「バリアフリー設計」、「感染対策の徹底」なども挙げられました。その他にも、持続可能な運営として秩父圏域全体で医療提供体制を支える連携・協力体制の必要性も指摘されました。

来院者・地域住民アンケート調査結果

◆ アンケート調査の概要

〔実施期間〕 【WEB】 2024 年 11 月 8 日(金)～11 月 29 日(金)

【紙】 2024 年 11 月 8 日(金)～11 月 22 日(金)

〔対 象 者〕 ①市立病院の来院者（患者・家族等）

②住民（主に秩父市民を想定）

〔回答形式〕 【WEB】 GoogleForms を活用した WEB アンケート

【紙】 アンケート用紙を市立病院で配布・回収

〔回答件数〕 823 件

〔設 問〕

設問 1 あなたの年齢を選択してください。

設問 2 あなたがお住まいの市区町村を選択してください。

設問 3 過去 5 年間で秩父市立病院を利用（入院または受診）したことがありますか。

設問 4 秩父市立病院を利用する際によく使用する交通手段は何ですか。※ 1

設問 5 受診先に市立病院を選んだ理由は何ですか。※ 1

設問 6 利用した感想をお聞かせください。※ 1

設問 7 市立病院を利用したことがない理由をお聞かせください。※ 2

設問 8 将来の秩父市立病院に求める役割・診療機能についてお聞きします。

設問 9 あなたが秩父市立病院に入院するとした場合、どの病室を希望しますか。

設問 10 将来の秩父市立病院に求める施設・設備についてお聞きします。

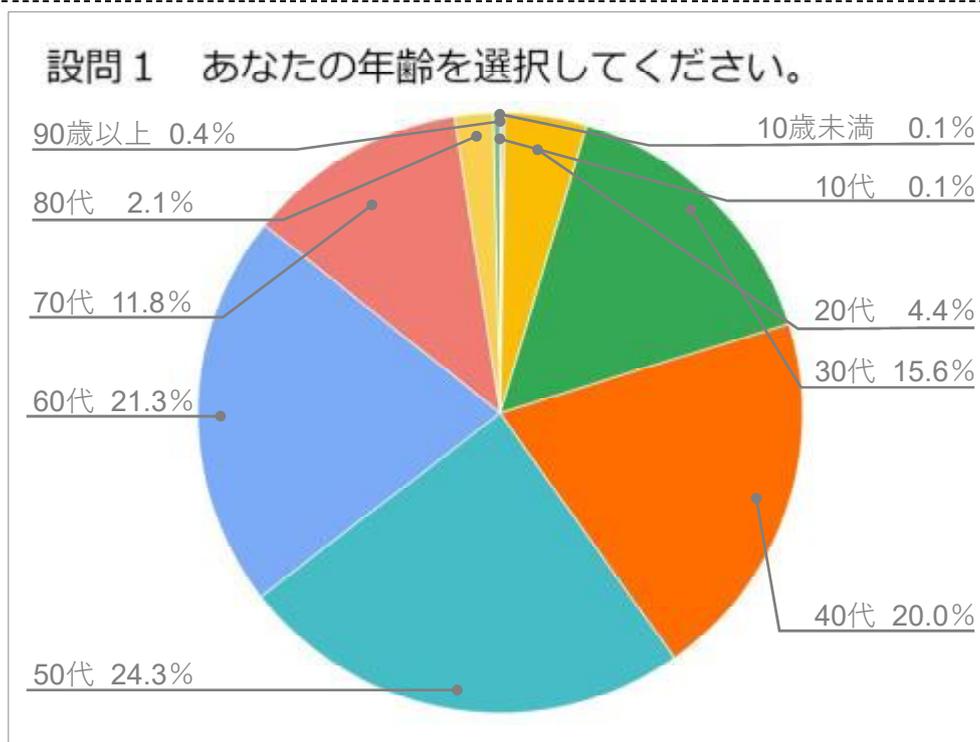
設問 11 将来の秩父市立病院に求めるサービス施設・設備についてお聞きします。

設問 12 今後、市立病院を利用する上で期待することをお聞かせください

※ 1 設問 3 で「利用したことがある」と答えた方のみ回答

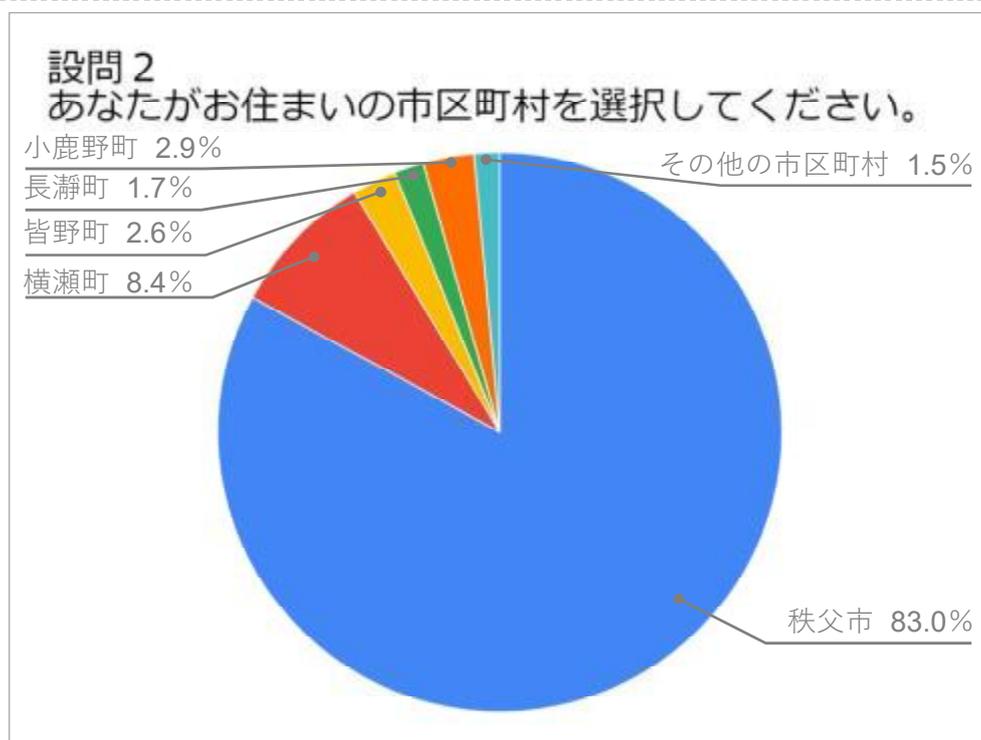
※ 2 設問 3 で「利用したことがない」と答えた方のみ回答

◆ 年齢階級別の回答状況



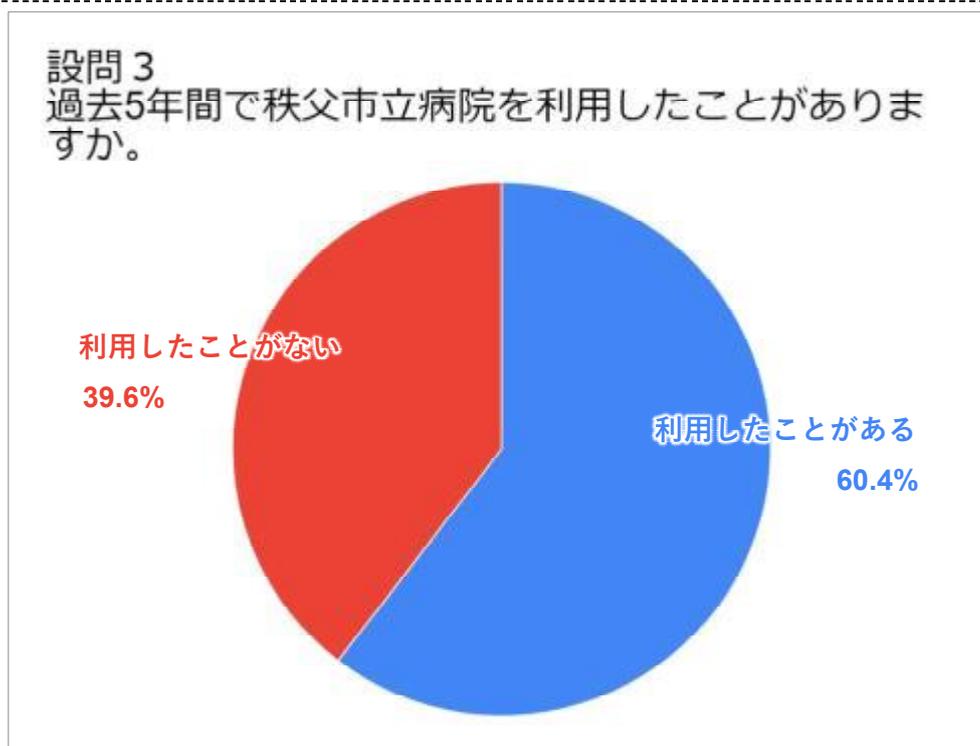
回答件数 110 件のうち、回答者の年齢階級をみると、50代が約 24.3%と最も多くを占めており、次いで、60代が約 21.3%、40代が約 20.0%、30代が約 15.6%、70代が約 11.8%となっています。一方、10歳以下、20代、80代、90歳以上の回答は少なく、30代～70代が中心的な回答層となっています。

◆ お住まいの市区町村について



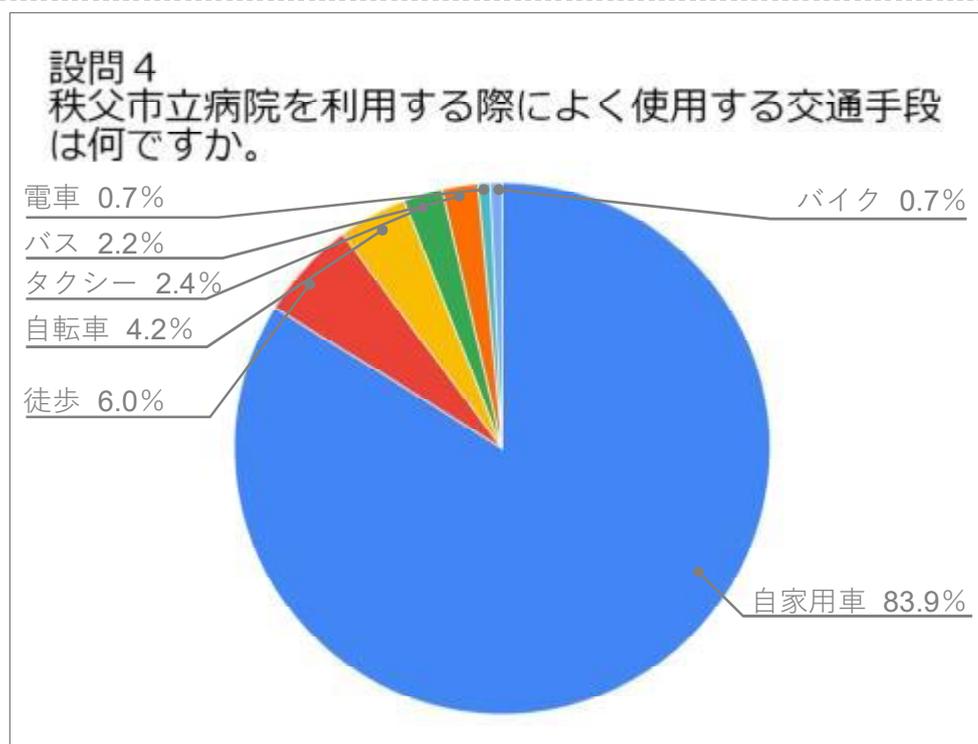
回答者のお住まいの市区町村をみると、「秩父市」が最も多く、全体の約 83.0%を占めています。次いで「横瀬町」が約 8.4%、「小鹿野町」が約 2.9%、「皆野町」が約 2.6%、「長瀬町」が約 1.7%となっています。

◆ 過去 5 年間の市立病院の利用状況



過去 5 年間で市立病院を利用（入院または受診）した経験について、「利用したことがある」が 60.4%、「利用したことがない」が 39.6%となっています。

◆ 市立病院を利用する際の交通手段について

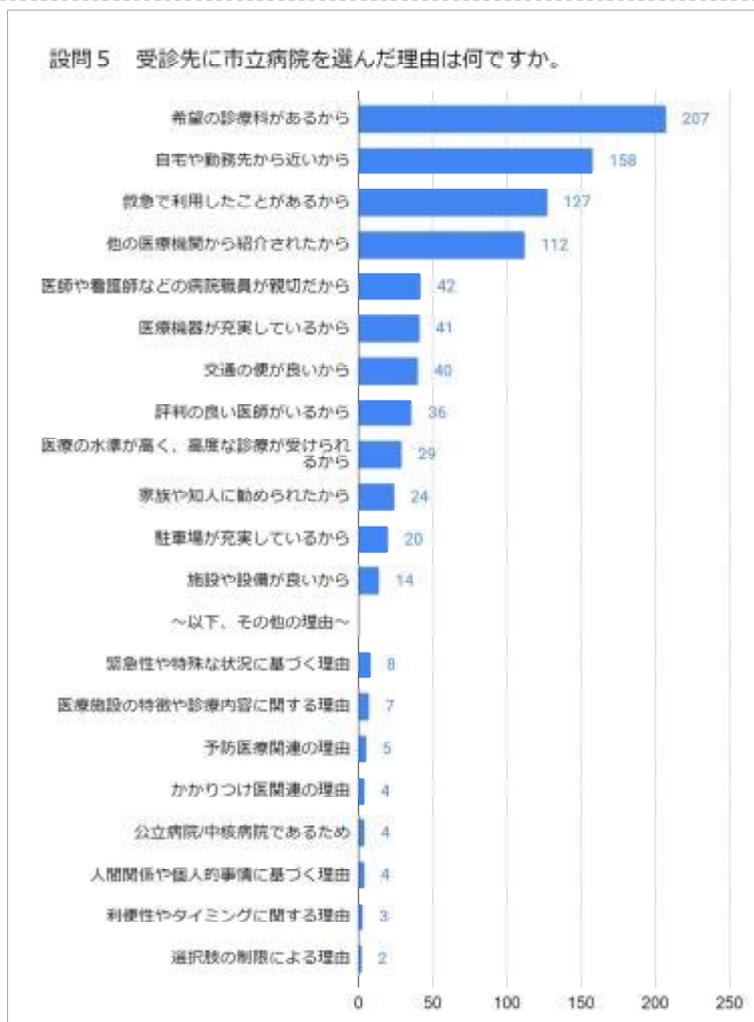


市立病院を利用する際の交通手段について、最も多いのは「自家用車」で約 83.9%を占めています。次いで「徒歩」が約 6.0%、「自転車」が約 4.2%となっており、「タクシー」、「電車」、「バイク」は少数となっていました。

この結果から、秩父市立病院の利用に際しては、「自家用車」が主要な交通手段となっていることが分かりました。

一方で、バスや電車などの公共交通機関の利用率の低さ、タクシーが公共交通機関の利用率を上回っている状況を見ると、高齢者や免許を持たない住民にとってのアクセス面での課題を示している可能性や、公共交通機関の利便性の低さを表している可能性があり、今後の課題として考えられます。病院へのアクセス向上のためには、利用できるバスの本数を増やすなど地域の公共交通網の強化、送迎サービスの導入を検討、交通手段に関する情報提供の充実などの対策が改善点として考えられます。

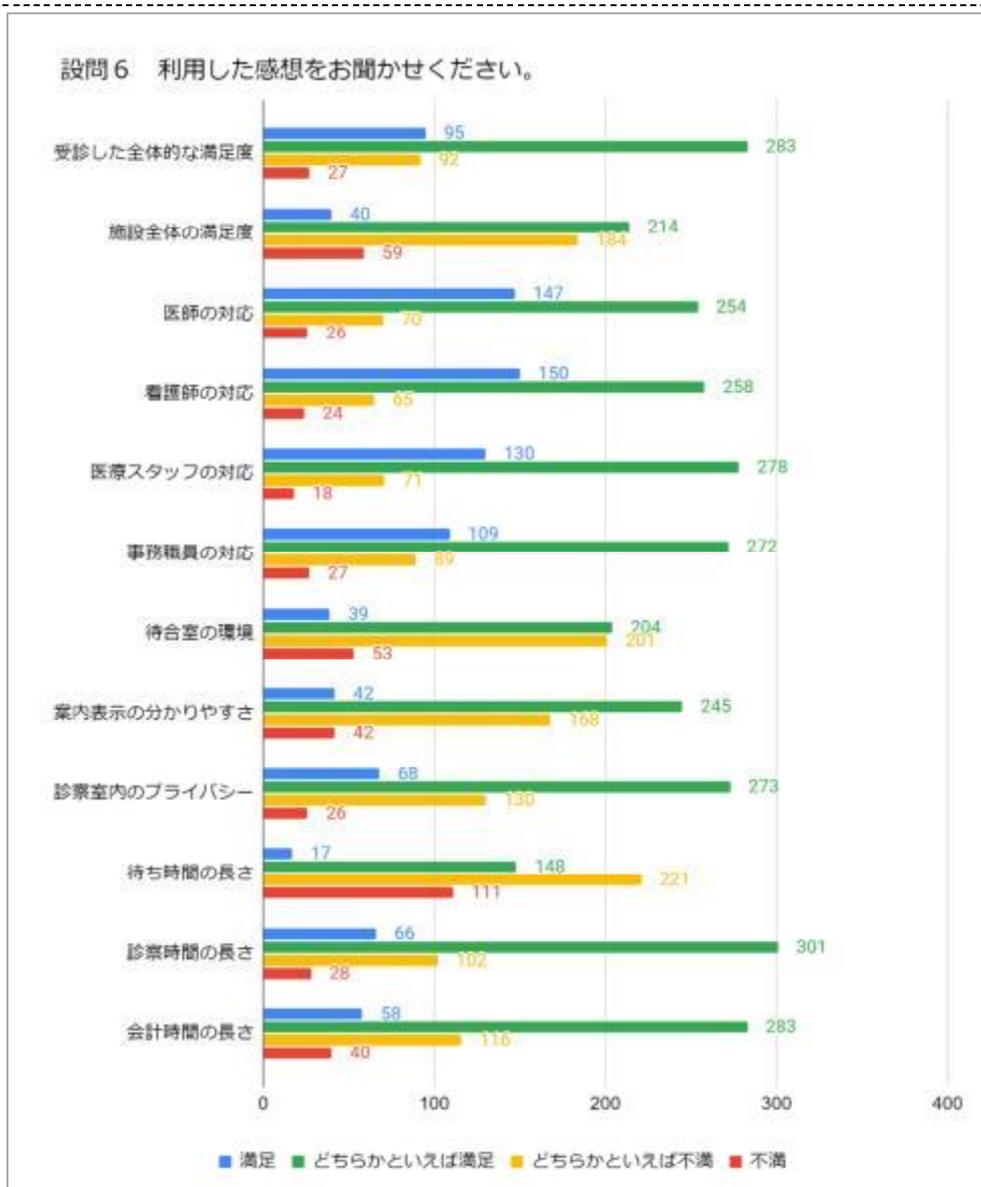
◆ 受診先に市立病院を選んだ理由



市立病院を受診先に選んだ理由として、最も多かったのは「希望の診療科があるから」（207件）でした。次いで、「自宅や勤務先から近いから」（158件）、「救急で利用したことがあるから」（127件）、「他の医療機関から紹介されたから」（112件）といった理由が上位に挙げられています。

この結果から、患者が市立病院を選ぶ主な理由としては、「診療科の充実度」や「立地の利便性」が大きな要因となっていることが分かりました。

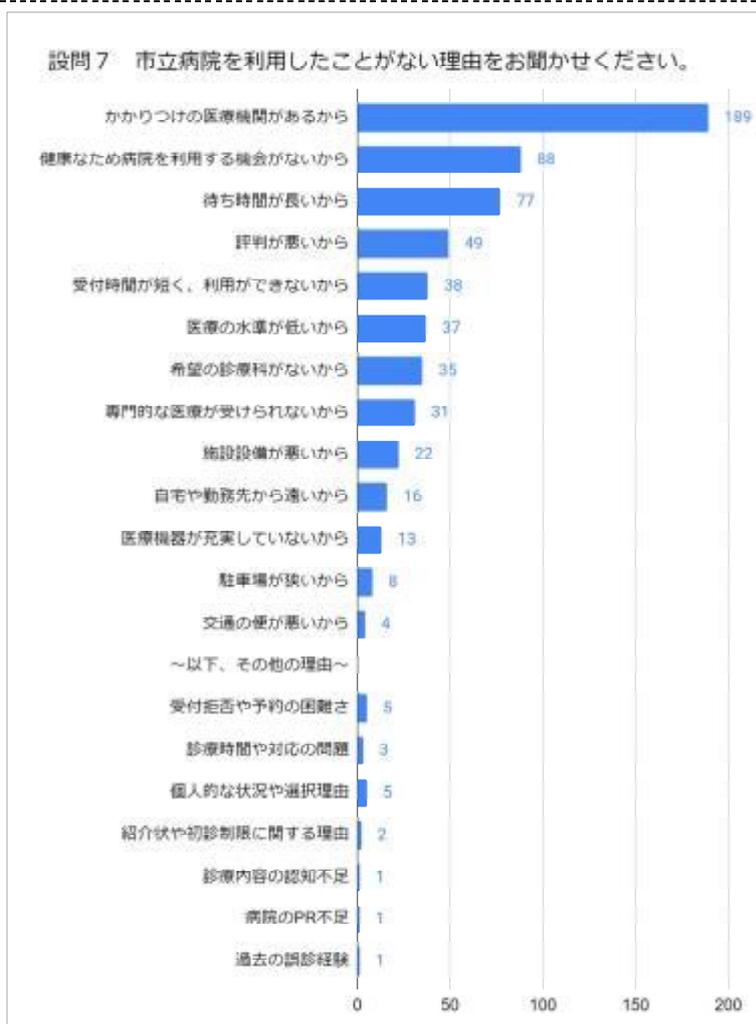
◆ 市立病院を利用した感想



「受診した全体的な満足度」や、「医師/看護師/医療スタッフ/事務職員の対応」に関しては比較的高い評価をいただいていたが、「施設全体の満足度」、「待ち時間の長さ」、「待合室の環境」など施設面に関する満足度は低い傾向にありました。

今回の結果から、病院職員の接遇やサービスは、患者にとってポジティブに評価されていることが考えられます。一方で、「施設全体の満足度」が低いことは、施設の老朽化や設備の不備が患者の満足度に影響を与えていることが考えられます。さらに、「待ち時間の長さ」に対する不満が顕著であることから、病院の運営効率の見直しが急務であることが考えられます。

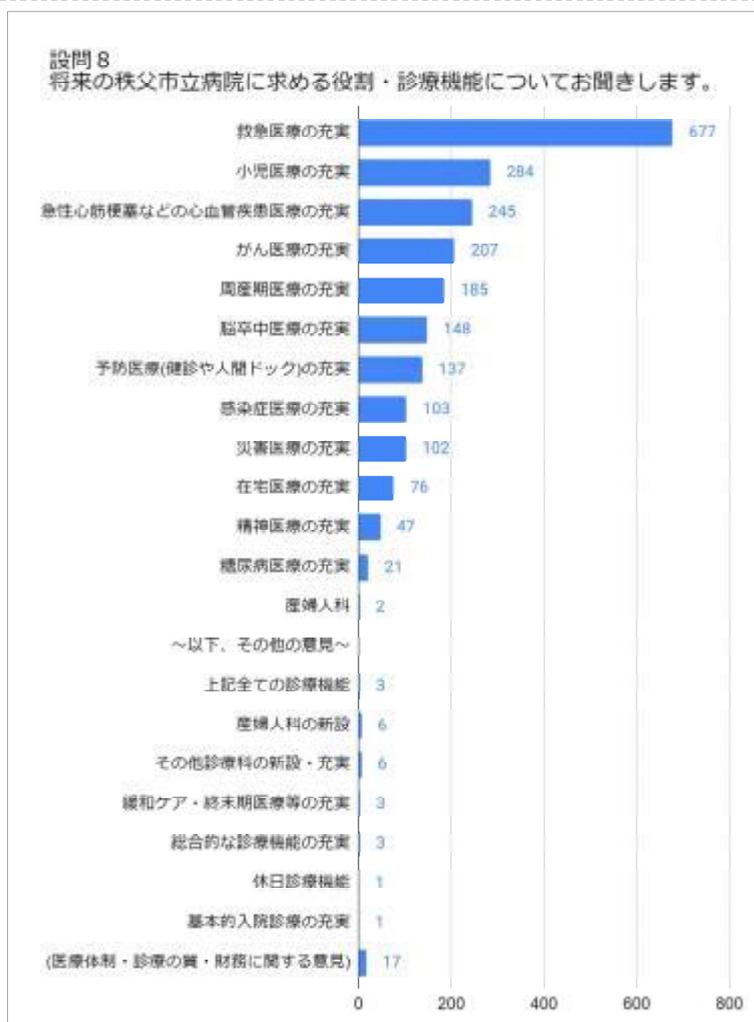
◆ 市立病院を利用したことがない理由



市立病院を利用したことがない理由として、最も多かったのは「かかりつけの医療機関があるから」（189件）でした。次いで、「健康なため病院を利用する機会がないから」（88件）、「待ち時間が長いから」（77件）、「評判が悪いから」（49件）が上位に挙げられています。また、「医療の水準が低いから」（37件）や「希望の診療科がないから」（35件）といった理由も一定数見られました。

「待ち時間が長いから」や「評判が悪いから」といった理由は、患者の利便性や信頼に関わる問題であり、病院の運営効率やサービスの改善が必要であることを示しています。「医療の水準が低いから」「希望の診療科がないから」といった理由については、市立病院の医療提供体制や専門性の向上が求められることが考えられます。

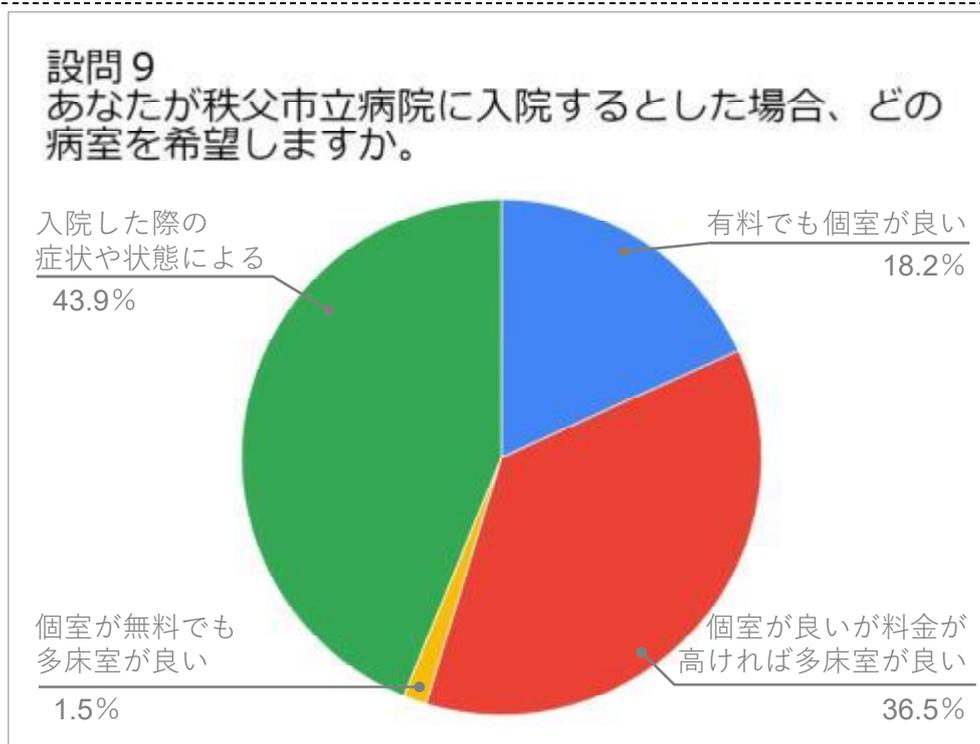
◆ 将来の秩父市立病院に求める役割・診療機能について



市立病院に求められる役割・診療機能として、最も多かったのは「救急医療の充実」（677件）でした。次いで、「小児医療の充実」（284件）、「急性心筋梗塞などの心血管疾患医療の充実」（245件）、「がん医療の充実」（207件）が上位に挙げられています。また、「周産期医療の充実」（185件）や「脳卒中医療の充実」（148件）、「予防医療（健診や人間ドック）の充実」（137件）といった回答も多く見られました。

今回の結果から、市立病院には幅広い診療機能が求められているものの、特に「救急医療」を求められています。また、「心血管疾患医療」、「がん医療」などへの要望が多いことは、地域住民が市立病院に対して高度な医療サービスを期待していることを示しています。

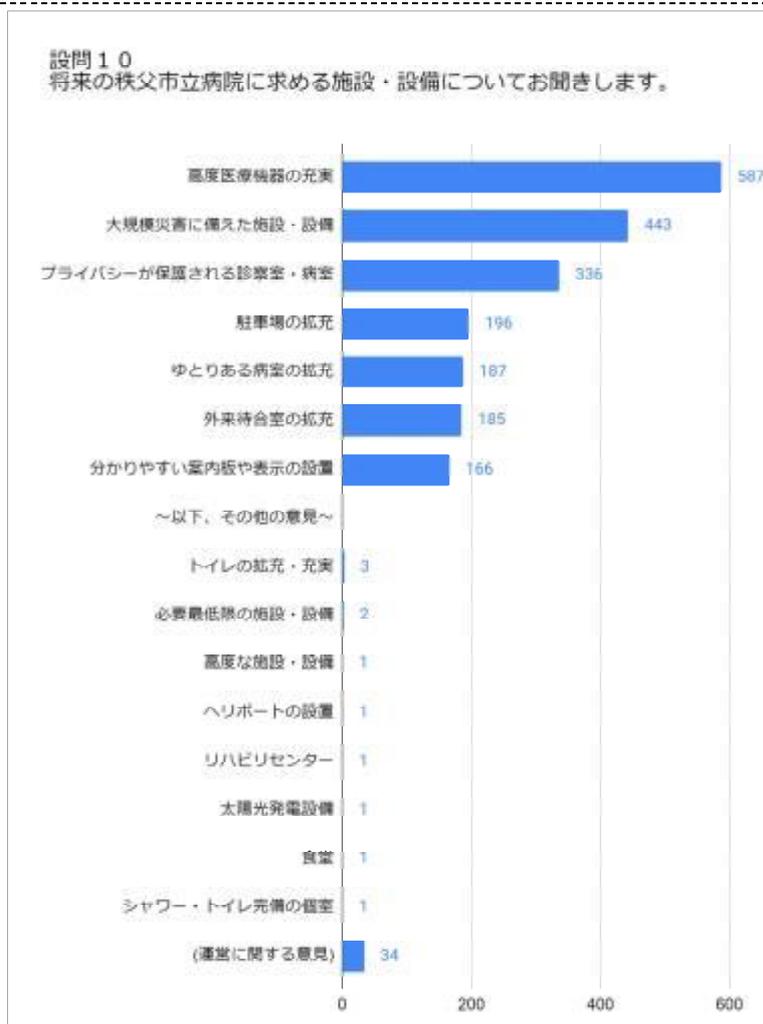
◆ 市立病院に入院する場合の病室の希望について



入院時の病室に関する希望として、最も多い回答は「入院した際の症状や状態による」で約43.9%を占めていました。次いで、「個室が良いが料金が高ければ多床室が良い」が約36.5%、「有料でも個室が良い」が18.2%、「個室が無料でも多床室が良い」は1.5%となっています。

多くの回答者が入院時の状況に応じた柔軟な選択をする一方で、個室を希望する人も一定数存在することが分かります。ただし、料金が高ければ多床室が良いという意見も多くなっているため、料金への配慮が重要な要素として考えられます。

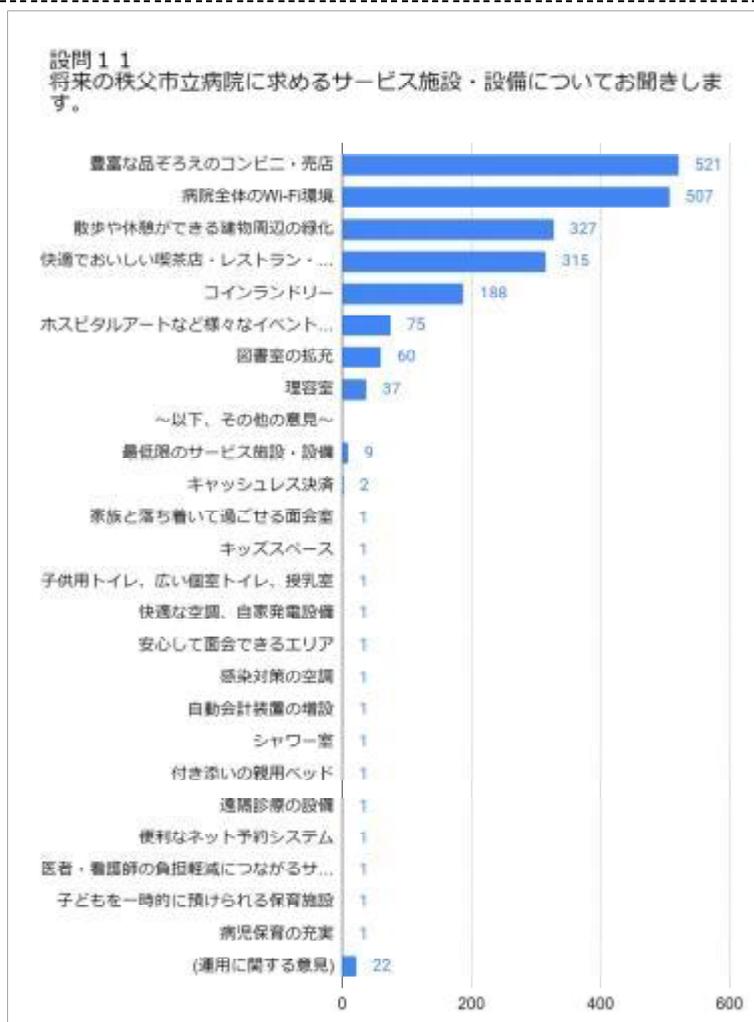
◆ 将来の市立病院に求める施設・設備について



市立病院に求められる施設・設備として、最も多かったのは「高度医療機器の充実」（587件）でした。次いで、「大規模災害に備えた施設・設備」（443件）、「プライバシーが保護される診察室・病室」（336件）、「駐車場の拡充」（196件）が上位に挙げられています。また、「ゆとりある病室の拡充」（187件）や「外来待合室の拡充」（185件）、「分かりやすい案内板や表示の設置」（166件）についても一定の要望が見られました。

この結果から、市立病院に対する住民の期待は、診療の質を支える高度医療機器の充実に加え、災害時の対応力や患者のプライバシーの確保、利便性向上にまで多岐にわたることが分かりました。特に、「大規模災害に備えた施設・設備」に関しては、市立病院が地域の医療拠点としての役割を果たすため、災害対応を念頭に置いた施設・設備計画が必要となります。

◆ 将来の市立病院に求めるサービス施設・設備について



市立病院に求めるサービス施設や設備として、最も多く挙げられたのは「豊富な品ぞろえのコンビニ・売店」（521件）でした。次いで、「病院全体のWi-Fi環境」（507件）、「散歩や休憩ができる建物周辺の緑化」（327件）、「快適でおいしい喫茶店・レストラン」（315件）が上位に挙げられています。

「豊富な品ぞろえのコンビニ・売店」が最も多く挙げられた背景には、患者や家族が必要な物品を手軽に入手できる環境が求められていることが考えられます。また、「Wi-Fi環境」の整備に関する要望は、滞在中の満足度向上へ寄与するものと考えられます。さらに、「散歩や休憩ができる建物周辺の緑化」や「喫茶店・レストラン」の要望からは、病院を訪れる人々がリラックスできる空間を求めていることが伺えます。

◆ 今後、市立病院を利用する上で期待すること

<主な意見を抜粋（要約）>

① 医療体制の充実

- ・ 医師不足を解消。
- ・ 救急科、小児科、産婦人科、などの強化。
- ・ 夜間・休日の救急体制強化や地域完結型の医療提供。
- ・ 高度医療機器の導入や脳外科・循環器内科などへの対応。
- ・ 秩父地域の中核医療機関として機能を拡大。

② 患者サービスの改善

- ・ 待ち時間の短縮として、診療の効率化や予約システムの見直し。
- ・ 医師や看護師、事務スタッフの対応改善。
- ・ 初めての利用者でも迷わない分かりやすい施設案内の充実。

③ 施設・設備の改善

- ・ 早急な建て替え。
- ・ 広い駐車場、アクセスの良い立地、バリアフリー設計。
- ・ 清潔感のある環境や広い待合スペース、個室の充実。
- ・ 防災機能やプライバシーを考慮した導線設計。

<総括>

住民から寄せられた意見では、「医療体制の充実」と「施設・サービスの改善」が強く求められています。特に、医師不足の解消や診療科の充実が最重要課題として挙げられ、小児科や救急医療の強化、夜間・休日の対応が期待されています。また、患者サービスの向上として、待ち時間の短縮や接遇改善、分かりやすい案内が求められています。

施設面では、早急な建て替えが必要とされており、清潔で快適な環境の整備や利便性の向上が望まれています。これに加え、地域医療の中心的役割を果たしつつ、災害時にも対応可能な病院としての設計が期待されています。

R6. 12. 16 時点

秩父市立病院建設計画策定委員会 令和 6 年度スケジュール (案)

日 程	項 目	内 容
7/24(金)	第 1 回策定委員会・諮問	委嘱・任命、委員長等の互選、経緯説明、策定スケジュールなど 基本構想案の策定について市長から諮問
8 月	コンサル事業者選定 (基本構想策定支援)	審査 (8/2) ⇒優先交渉権者決定 (8/8) ⇒ 契約 (8/27)
9/9(月)・10(火)	(経営幹部ヒアリング)	市立病院経営幹部に対するヒアリング
9/10(火)～30(月)	意見照会	構想原案(骨子)の送付、意見照会
10/2(水)・3(木)	委員ヒアリング	構想原案(骨子)についてリモート形式でヒアリング (任意参加・8 人参加)
10/23(水)・24(木)	(部門ヒアリング)	市立病院各部門に対するヒアリング
11/1(金)13:30～	第 2 回策定委員会	原案について
11/1(金)～15(金)	(病院職員アンケート)	対象：市立病院職員 (回答件数：110 件)
11/8(金)～29(金)	(来院者・地域住民アンケート)	対象：来院者・地域住民 (来院者には院内で周知、地域住民には市 HP 等で周知)
11/29(月)14:30～	第 3 回策定委員会	パブリックコメント案について①
12/23(月)13:30～	第 4 回策定委員会	パブリックコメント案について②
1/7(火)～2/5(水)	パブリックコメントの実施	市報 1 月号に予告記事掲載後、市 HP 及び窓口で公開
2/20(木)13:30～	第 5 回策定委員会	答申案 (最終案) について①
3/17(月)13:30～	第 6 回策定委員会	答申案 (最終案) について②
3/17(月)14:30～15:00, 3/21(金)11:00～11:30, 3/24(月)11:00～11:30 の いずれか	答申 (任期满了)	構想案を市長に答申 (3/21, 24 の場合：正副委員長対応を想定)
3/末	計画策定完了	答申を受け、市としての計画を策定完了

【参考】令和 7 年度 (想定)

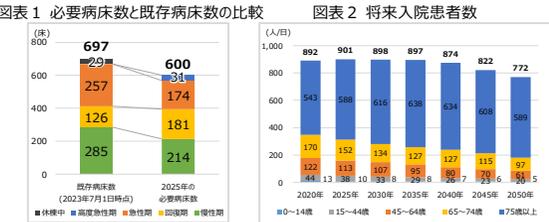
4 月または 5 月	公募委員の募集	市報 4 月号に掲載
5 月～	委嘱・任命(任期開始)	諮問 (基本計画案の策定について)
5 月～	コンサル事業者選定	基本計画策定支援
5 月～	基本計画策定に着手	市事務局、計画策定委員会、選定業者

策定の目的・経緯

- 現在の市立病院の建物は、南館が1981年築、本館が1991年築、南館増築棟が2001年築であり、南館及び本館を中心に老朽化が深刻な状況になっています。
- これを受けて、市では2017年度以降、段階的に病院施設の今後を検討し、2024年1月からは、保健医療部に市立病院建設準備室を設置、同年7月には、庁内外の関係者、関係機関の代表者など13人の委員で構成する「秩父市立病院建設計画策定委員会」を組織し、基本構想案の策定について調査審議を進めました。
- この「秩父市立病院建設基本構想」は、このような調査審議を経て、新たな市立病院が目指すべき姿、具体的には担うべき役割、機能など、新病院の建設に当たり基本となる内容を取りまとめたものです。

市立病院を取り巻く環境

- 秩父医療圏の2025年の必要病床数は、600床（2023年7月1日時点の既存病床は697床）と推計されており、病床機能別では、急性期・慢性期病床が余剰となる一方で、高度急性期病床や回復期病床が不足する見込み。（図表1）
- 秩父医療圏の入院需要は、2025年以降減少することが推計されている。（図表2）
- 秩父医療圏は、他医療圏への入院患者の流出が他医療圏からの流入を上回っている。



市立病院の現状

- 現在の市立病院の建物は、南館や本館の老朽化が進み、狭いスペースや動線などの問題により医療ニーズへの的確な対応に苦慮しており、給排水や空調などの主要設備の劣化も深刻なため、環境改善が求められている。
- 2023年度の病床稼働率は、70.3%となっており、新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ病床稼働率は徐々に回復傾向がみられるが、未だ流行前の2019年度の76.8%までは戻っていない状況。
- 経営状況は、2022年度から2023年度において黒字となっている一方で、病院の本業である医業活動による収益状況を示す修正医業収支比率は83.4%となっており、本業である修正医業収支の改善が求められる。

所在地	秩父市桜木町8番9号
開設	1966年7月1日
診療科	9診療科
病床数	一般病床165床 (稼働病床136床)
敷地面積	10,029.61㎡
建築面積	3,786.13㎡
延床面積	10,479.76㎡ (医療ガス室等施設を除く)

新病院の目指すべき姿

- 新病院の基本理念
「安心・安全・満足を地域住民の皆さんに」
 - 新病院においても現行の「病院の理念」を引き続き「基本理念」として位置づけることで、将来にわたって安心・安全・満足を地域住民の皆さんに提供できるよう努めます。
 - また、新病院においては、新病院が目指す将来像を具体化するものとして、新病院の「基本理念」に基づき、開院時まで新たな「基本方針」を策定することとします。

新病院の担うべき役割

- 救急医療や感染症医療など不採算・特殊部門を含む医療の提供
- 急性期医療の提供
- 医療圏内で不足する診療科のかかりつけ医（初期救急）機能
- 対応困難時の搬送に備えた医療機関相互の機能分化や連携強化
- 総合診療や在宅医療の提供
- 地域に不足する高度急性期機能（HCU）

新病院の担うべき機能

- がんへの対応**
 - 手術、緩和ケア、抗がん剤治療等
- 脳卒中・心疾患への対応**
 - 外来診療の維持、対応困難時の専門医療機関との連携強化
 - 埼玉県急性期ネットワークへの協力
- 精神疾患への対応**
 - 心療内科、認知症への対応
- 糖尿病への対応**
 - 糖尿病重症化予防の推進
- 感染症医療への対応**
 - 検査・治療体制の維持、動線、個室の整備
- 救急医療**
 - 二次救急輪番体制の堅持等
- 災害医療**
 - 災害時の医療活動スペースの確保等
- 小児医療**
 - 病室等の拡充、対応困難時の専門医療機関との連携強化
- 在宅医療**
 - 相談窓口の維持、訪問診療の拡充
- 人工透析**
 - 外来透析の維持、災害時等の連携強化
- 予防医療**
 - 健診・人間ドック等の取り組みを強化

新病院の担うべき機能（つづき）

へき地医療

- 現在、秩父市大滝国民健康保険診療所が、大滝地域唯一の医療機関としてかかりつけ医機能を担っており、市立病院との間で医療スタッフ（医師、看護師等）の相互派遣を行っています。引き続き、同診療所との連携を図るとともに、秩父医療圏内の医療格差の是正に向けた取り組みを進めます。

病診連携含めた地域内外の医療機関や各施設等との連携

- 現在、市立病院では、地域医療機関と医師・看護師・助産師など医療スタッフの相互派遣や情報共有、医療機器の共同利用（受託検査）等を実施しています。
- 新病院では、引き続き地域内外の医療機関や保健・福祉施設との連携を図り、医療従事者の人材交流を通じて、スキルの向上と最新の医療知識の共有を進め、質の高い医療の提供を維持できるように努めます。

地域包括ケアシステムの推進

- 市立病院の「地域医療連携室」は、「ちちぶ在宅医療・介護連携相談室」として、患者や家族等からの相談に応じています。また、地域包括ケアシステムの一環である「ちちぶ圏域ケア連携会議」の事務局として、「ちちぶ版地域包括ケアシステム」の推進に当たっています。
- 新病院では、引き続き医療関係者、介護事業者、福祉関係者など多職種連携を維持し、秩父医療圏全体での情報共有と支援を徹底することで、住民が住み慣れた地域で安心して医療や介護を受けられる支援を推進します。

新病院の診療科目

- 新病院の診療科目は、次に掲げる現行の科目を維持することを基本として検討します。

内科（総合診療科）	外科	整形外科
泌尿器科	脳神経外科	小児科
麻酔科	循環器内科	消化器内科

- 総合診療科は、状況に応じ、機能の強化を図り、産科・婦人科等は、将来的に市立病院で開設を検討する可能性を視野に入れ、柔軟な対応が可能な諸室整備を検討します。

新病院の病床数

- 基本構想の段階においては、現行の165床を基本に検討を進めていますが、今後の人口動向、患者の受診傾向、地域医療機関の動向などを総合的に考慮しながら精査を行います。
- 新病院の病床機能については、現行の急性期機能および回復期機能を維持しつつ、秩父医療圏で不足している高度急性期病床（HCU）の整備を検討します。

新病院の経営形態

- 現在、市立病院は地方公営企業法（一部適用）で経営を行っていますが、地方公営企業法（全部適用）、地方独立行政法人、指定管理者制度などそれぞれのメリット・デメリットを踏まえ、将来の市立病院がとるべき選択肢を基本計画の段階で協議し決定します。
- また、限られた医療資源を最大限に活かすため地域医療連携に関する制度などの活用を検討し、医療・保健・福祉の地域内連携を推進します。

その他

医師・看護師・医療従事者等の確保

- 医療の質を向上させるとともに、円滑な医療提供体制を構築するため、医局との交渉、実習施設の整備、職場環境改善など様々な取り組みを実施します。
- また、多様な人材が活躍できる環境・待遇の整備育として、育児や介護中の柔軟な勤務形態、産休・育休制度の利用促進、復職支援プログラムの導入を検討します。

医療・保健・福祉施設等との併設や合築の可能性

- 新病院では、包括的な医療の提供を拡充できるように、医療・保健・福祉施設等との併設や合築の可能性を検討します。

新病院の施設計画

整備手法

- 建設単価の高騰が続いている状況であることから、今後の社会情勢等を注視し、基本計画段階で最終的な発注方式を検討します。

建設候補地

- 建設候補地については、現在地に建て替えるか又は別の場所に移転するかも含め、基本計画の段階で協議し決定します。

整備スケジュール

- 整備スケジュールは、下表のとおり想定しています。（※諸条件により延長の可能性あり）

2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度	2030年度	2031年度
基本構想	基本計画						
1年	1年半	設計発注 半年	基本設計 1年	実施設計 1年	工事発注 半年	開院	
					施工		
				造成工事	1.8年		